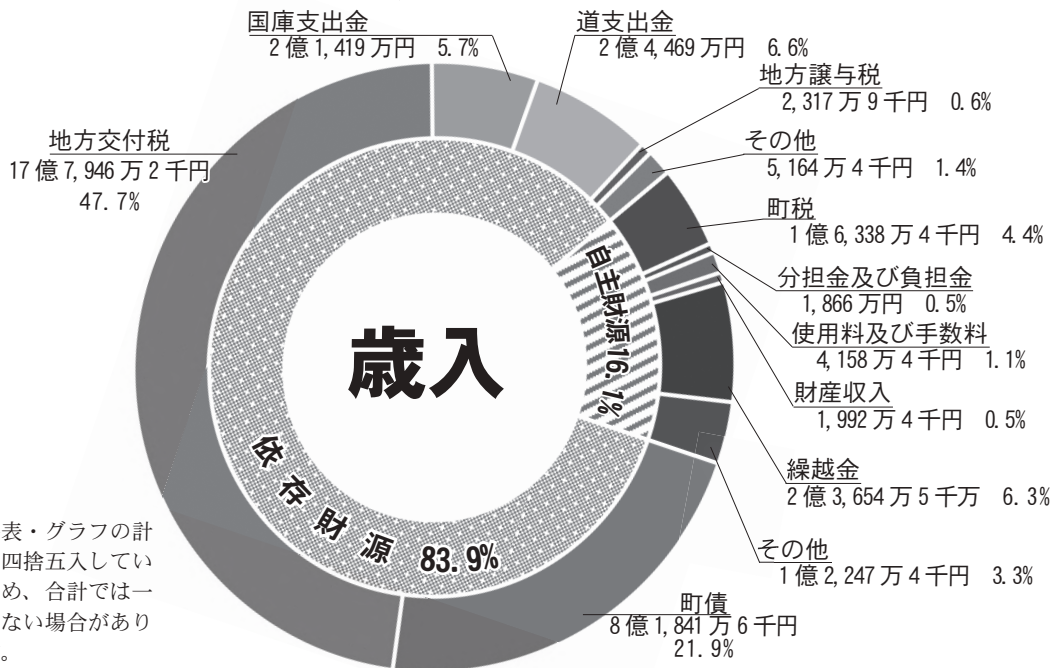


平成27年度各会計決算から見るまちの財政事情

健全な財政運営をみんなの努力で

一般会計

歳入決算額 37億3,415万3千円 (対前年度 6億8,936万1千円 増)



※各表・グラフの計数は四捨五入しているため、合計では一致しない場合があります。

平成27年度の町の各会計歳入歳出決算が、12月に開かれた第4回町議会定例会で認定されました。

町の財政“台所事情”の現状についてお知らせします。

収支は約1億4千万円の黒字、しかし……

平成27年度の一般会計と特別会計の歳入総額は44億1,774万円（前年度比5億9,632万円、15・6%増）、歳出総額は42億2,467万円（前年度比6億3,979万円、17・8%増）、差引1億9,307万円で、翌年度に繰り越すべき財源を控除した実質収支は1億3,743万円でした。

一般会計の歳入の内訳を見ると、町税などの自主財源は約16%、地方交付税など国などから交付される依存財源が約84%を占めており、国などの財政支

援に依存する構造が続いています。また一般会計歳出のグラフを見ると、次ページ上のグラフのとおり人件費や扶助費などの義務的経費、北後志消防組合負担金などの補助費、特別会計への繰出金を合わせた約17億6千万円は、地方交付税交付金約17億8千万円とほぼ同額で、町独自の新たな振興策や施策の充実に向ける財源に余裕が無い状況が分かります。

急がれる特別会計の改善 減らない一般会計からの繰入

一般会計で約1億3千万円余の余剰繰越金が生じていますが、各特別会計の決算状況では、一般会計からの基準外繰入金約1億4,087万円により赤字を補填している状況が続いています。

特別会計は本来、水道使用料や国保税など特定の受益者負担

収入で特定の事業支出に充てる独立採算制を原則としています。しかし、現状の特別会計は、使用料や基準内の一般会計からの繰入金だけで賄うことが出来ないために、基準外の繰入（赤字補填金）を行っています。

町民の皆さんから納めていただいている町税約1億6,338万円のほぼ全てが特別会計の赤字補填へ消えてしまっていることとなります。

しかし、特別会計で発生した赤字を放置した場合、赤字は累積してしまいます。平成17年度決算で10億4千6百万円にも達し、その解消に7年もの苦難を要した財政再建を教訓に、貴重な自主財源の重要性を理解しながらも、基準外繰入金による赤字補填を行い、町の会計全体としての毎年度の財政収支の均衡を保っています。

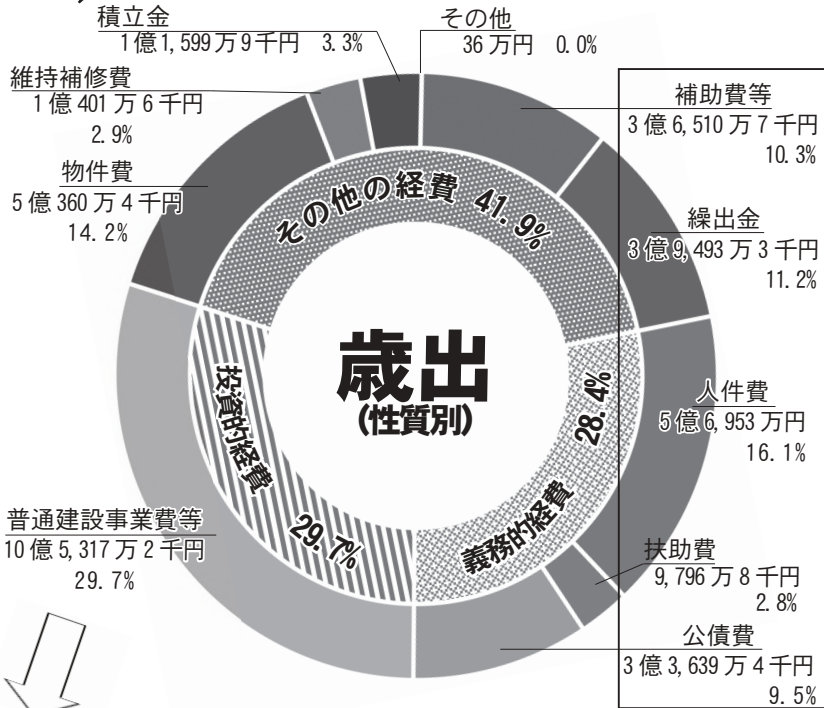
このようなことから、「行政・公共サービス水準の維持向上」

一般会計

歳出決算額 35 億 4,108 万 3 千円 (対前年度 1,521 万 7 千円 増)

歳出 (目的別)

区分	歳出額	構成比
議会費	56,233	1.59%
総務費	1,029,198	29.06%
民生費	1,027,215	29.01%
衛生費	129,165	3.65%
農林水産業費	102,098	2.88%
商工費	88,057	2.49%
土木費	331,216	9.35%
消防費	185,170	5.23%
教育費	254,529	7.19%
公債費	336,394	9.50%
その他	1,808	0.05%
合計	3,541,083	100%



平成 27 年度の主な事業・財源内訳の例

■地域密着型特別養護老人ホーム整備事業



特別養護老人ホーム施設本体工事費等への補助及び町が実施した外構整備関連工事費等
 総事業費：6 億 4,810 万円
 道(国)費：1 億 5,174 万 5 千円
 過疎債：4 億 8,390 万円
 その他：165 万 9 千円
 一般財源：1,079 万 6 千円

■島武意公園公衆トイレ建設事業



身障者等に配慮した多目的トイレを新設
 総事業費：1,947 万 2 千円
 国費：1,363 万円
 辺地債：580 万円
 一般財源：4 万 2 千円

や特別会計への基準外繰入金縮減のため、「税や住宅使用料などの滞納対策の強化」と「使用料などの受益と負担のあり方」など、改革の検討の重要性について、町ぐるみで共通の認識を深め、健全な財政運営に努めていかなければなりません。

国・地方が行財政縮小の時代を迎えている今、町の三つの課題である「財政の健全維持」、「行政サービス・公共サービスの水準向上」、「町の振興・地域の活性化」の克服と両立のため、町民の皆さんのより一層のご理解

監査委員の意見

平成 28 年 9 月の第 3 回町議会定例会での財政健全化判断比率に関する報告では、簡易水道事業、下水道事業、産業交流雇用対策推進事業(岬の湯しゃこたん)の 3 特別会計の「財政健全化判断比率」について、下記のとおり監査委員から意見がありました。

とご協力をお願いします。

「財政健全化判断比率」についての監査委員の意見 (抜粋)

■簡易水道事業特別会計

独立採算制を基本とした経営状況の健全化に近づけるため、加入率の向上や使用料の滞納対策など、改善努力が必要である。

■下水道事業特別会計

独立採算制を基本とした経営状況の健全化に近づけるため、加入率の向上等の改善努力が必要である。

■産業交流雇用対策推進事業特別会計

施設等の老朽化に伴う更新の必要性が高まるなど、管理費用の増高が懸念される。中長期的な視点での資金需要の把握と、経営の健全化に向けた一層の改善努力を期待する。

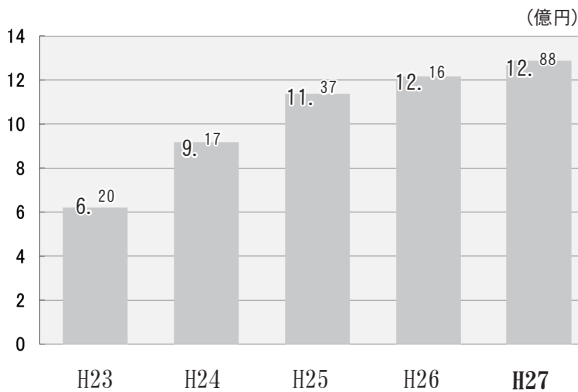
特別会計

歳入歳出決算額

会計名	歳入決算額		歳出決算額
		一般会計からの繰入金 (内 基準外繰入金)	
簡易水道事業	1億7,100万2千円	1億847万8千円 (2,874万1千円)	1億7,100万2千円
国民健康保険事業	事業勘定	1億9,455万8千円	6,245万8千円 (1,611万0千円)
	直診勘定	6,970万7千円	1,781万3千円 (1,700万3千円)
下水道事業	5,813万5千円	4,838万9千円 (3,415万8千円)	5,813万5千円
介護福祉サービス事業	3,602万4千円	1,584万0千円 (1,546万5千円)	3,602万4千円
産業交流雇用対策推進事業	1億1,732万1千円	2,939万6千円 (2,939万6千円)	1億1,732万1千円
後期高齢者医療	3,684万0千円	1,673万4千円 (0円)	3,684万0千円
合計	6億8,358万6千円	2億9,910万7千円(1億4,087万3千円)	6億8,358万6千円

まちの基金（貯金）と地方債（借金）の現状は？

■ 基金積立金の推移



(注) 備荒資金4億1,830万円と土地開発基金7,725万円を含む。

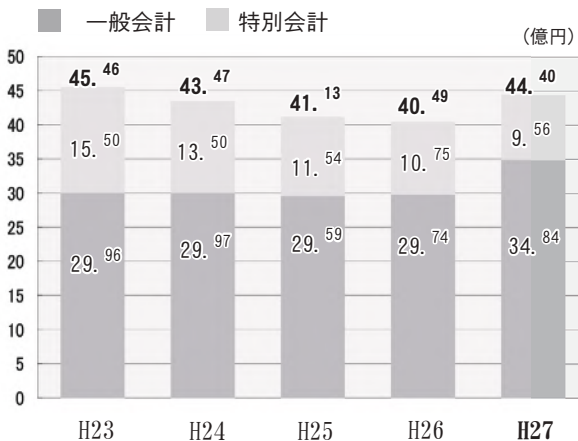
※備荒資金・土地開発基金については公表されていないため、除いた金額で他市町村と比較します。

町の貯金にあたる基金は、減債基金に7,500万円、北海道備考資金組合基金に2,573万円など合計1億1,356万円を新たに積立て、まちづくり活動支援基金などから4,539万円の取崩しを行い、総額12億8,822万円の基金保有残高です。

—他の市町村と比べると・・・—

- ・後志管内平均額
22億8,700万円
- ・全道基金保有高 ※
179市町村中、177位
- ・後志管内基金保有高
19町村中、19位
- ・町民一人あたりの
基金残高
57万円

■ 地方債残高の推移



地方債は、町が事業を行う借金です。毎年3億円程度を償還しています。H27年度は、特別養護老人ホーム整備事業や島武意通り線改良事業、観光協会運営補助、プレミアム商品券補助など総額8億1,842万円の新たな借り入れを行いました。そのうち、償還財源として国の支援措置がある過疎債及び辺地債、臨時財政対策債を7億5,092万円を活用しました。

—他の市町村と比べると・・・—

- ・後志管内平均額
42億9,580万円 (一般会計)
- ・全道地方債残高
179市町村中、164位
- ・後志管内地方債残高
19町村中、13位
- ・町民一人あたりの
地方債残高
196万円